

学びに定年はない!

77歳の経済学部聴講生 浜口さん

77歳の経済学部聴講生 浜口文男さんは金融関係の会社を退職後、「現実の経済を理論でどう説明しているのか」を知りたいと、平成6年度から経済学部の聴講生になった。現在までにゼミも含め142単位相当を履修。ほとんどが「A」という優秀な成績だ。前から2列目が定位置。先生のお話をしっかりと聞いていけば、どこがポイントなのか分かります。試験の時に苦労することはありません。「浜口さんを見てみると、僕



▲ プレゼンテーションセミナーの成果を披露する浜口さん(左)

留学生の前で見事な英語のプレゼンテーションを披露

た。「大学には『知の資源』がたくさんあります。使わなければもったいないですよ。」同センターが毎年夏期休暇に開いている「英語によるプレゼンテーションセミナー」を今年受講し、1日4時間・9日間を「英語漬け」で過ごした。「ハードでしたが、スピーキング力はかなり上がったと感じています。学んだ成果を10月7日、来日中の留学生の前で披露した。「文章を作るのは苦労しませんでした。先生の先生に相談したところ、『100回声に出して読んでみて』とアドバイスされ、実践しました。」

「One Day Tokyo Tour」をテーマに浅草と皇居の見どころをプレゼンテーション。「話すのに途中で、アイコンタクトやジェスチャーがおそろかになってしまいました」と反省するが、留学生たちからは大絶賛を浴び、ほとんどが高い評価をつけてくれた。

毎日英語新聞を読み、分からない用語をノートに記入している。「自分なりのノートを作ることを平尾光司先生(元経済学部教授)に教わりました。辞書がなくても英字新聞を理解できるようにすることが目標。来年も聴講し、以前学んだ『経済原論』をもう一度学んでみたい」と話してくれた。

「海外旅行に行きたい」という目標から英語に興味をもち、退職後、NHKのラジオ講座で基礎から学び始めた。授業の合間には、国際交流センターの英会話講座や外国人客員教授による特別講演会なども毎回受講し、レベルアップに努めてき

※経済学部の社会人聴講生出願は2月2日から同15日まで。問い合わせは経済学部 ☎044(91)1207へ。

大学生のベースボールビジネスアワード 専大から2チームが優秀賞



▲ 表彰を受ける三橋さん

三橋さん

小さいころからプロ野球ファンだという三橋さんは、自宅近くの千葉マリノーズの改革ではJリーグ「細かい提案が評価された」スタジアムによく足を運ぶ

196作品の応募があった「大学生のベースボールビジネスアワード2010」(読売新聞東京本社主催、読売巨人軍協力)の表彰式が11月23日に東京ドームで行われ、本学から優秀賞の三橋亮吾さん(商3)と奥瀬喜之ゼミの井上友也さん(商4)ら6人が賞状と副賞を授与された。奥瀬ゼミは昨年に続く入賞。

グループワークで後輩に経験を伝える

奥瀬ゼミ マーケティングと消費者行動を研究する奥瀬ゼミ。昨年優秀賞を獲得した井上さん、白男川卓哉さん、玉島崇光さんが「リベンジしたい」と応募を決意。高校まで野球をやっていた栗原昌弘さん(商3)に声をかけ、細越洋希さん、武田麻

行動特性から提案

ドゥシエス・モデルを用いた仮説構成概念とアウトプットを最大限に生かし、新たなトトへ向けたアプローチ。ビジネスモデルとして現在あるファンクラブ「Grip」を最大限に生かし、新たなトトへ向けたアプローチ。ビジネスモデルとして現在あるファンクラブ「Grip」を最大限に生かし、新たなトトへ向けたアプローチ。

「OBの松本哲也選手がけがから復帰した日、観客席はとも盛り上がり、ペイン「Grip」で「一歩」代が少なかったのが印象的だった」と玉島さん。そこで「大学生が東京ドームに気軽に足を運ぶための」提案として昨年より成長でき案をしようと、まずアンケートと思うが、リーダーとして



▲ 先輩と後輩のチームワークを発揮した奥瀬ゼミ

「このコンテストに応募したくて、ビジネスプランニングが学べる高橋義仁ゼミを選んだので、外部の方から高く評価していただきたのは本当にうれしいです。多くの応募があった中で専大から2チームが受賞したのも誇りに思います」と話している。



佐島ゼミ生

11月24日に甲府市などで行われた防衛省南関東防衛局主催の第15回防衛問題セミナー「ハイチPKOと陸上自衛隊の活動」に国際安全保障論を学ぶ佐島直子ゼミから10人が参加した。

ハイチPKO活動に学ぶ

学後、災害派遣における自衛隊の役割、大地震で被害を受けたハイチにおけるPKO活動の概要についての講演や参加隊員との討論会などで、海外における自衛隊の活動への理解を深めた。討論会は参加隊員と慶応大学、山梨学院大学など5大学の代表によるもので、本学からは三砂昭太さん(経済4)と川端亮平さん(商3)が参加、現地の活動における苦労などを質問していた写真。

第26回HEIB講座

11月25日、HEIB講座横山由美学生代表(商3)の第26回講座が生田キャンパスで開催され、NGO団体Room to Read 大学生チームU-Leadの初代代表・持田裕子さんと現代代表・張聖さん(いずれも慶応大3年次)が「大学生による社会貢献活動」U-Leadの取り組み」をテーマに講演した。

大学生NGO団体 U-Lead 代表が講演

U-Leadはマイクロソフト社が、発展途上の教育普及支援を目的に設立したNGO団体「Room to Read」の日本唯一の公認大学生団体。ジョン・ウッド著「マイクロソフトでは、546人の参加を得て、インドの女子生徒59人分の1年間の奨学金を支援。「企業の協賛に、1社1社電話をかけてアポを取った。地道な努力を続け信頼を得た」と持田さんは語る。張さんは「活動を通じて社会でのマナーを学んだ」と語った。2人に質問した後、会員たちは神原理商学部教授を交え、チャリティー精神が根付きにくい日本で共感を広げる難しき、コミュニケーションに参加する意義について考えた。

途上国の子供たちに学ぶ機会を



▲ 講演する持田さん、左が張さん